

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和2年8月26日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	17	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870400383
事業所名	グループホームサルビア
(ユニット名)	さくらんぼ
記入者(管理者)	
氏名	土居 由和
自己評価作成日	令和2年8月1日

<p>【事業所理念】※事業所記入 あたりまえ 利用者の自分らしさがでて、職員自身が生活したいと思えるやすらぎのホームにする</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ●日常的な外出支援 ①天候や入居者の体調及び表情等を確認しながら、できるだけ外出するよう努力をしましたが、利用者様によっては拒否されたりして限られた人しか支援できなかった。 ②水曜日をレクリエーションの日と定め、カラオケや、ゲームの他に、午後から天気が良ければ日光浴したり、窓際で日向ぼっこをしたりしている。 ●食事を楽しむことの出来支援 ①一緒に料理を出来る利用者様には手伝ってもらい作る楽しさを感じてもらっている。 ②週に2回自由の日があり利用者様の食べたいものなど聞いて提供することで食べる楽しさを提供している。 ③誕生日にはその利用者様の好きな食事を作ることで「特別な日」を感じていただくようにしている。 ●運営推進会議を活かした取り組み ①ご家族様には、推進会議への参加依頼もしましたが、毎回の出席は難しいとのことで、会長だけの参加になりましたが、行事と一緒の推進会議ではたくさんご家族様の参加があった。しかしコロナウイルスの影響で現在は書面での開催になっている。 ②今期より新しくGHの管理者に参加していただく予定でしたがやはりコロナウイルスの影響で自粛している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 「ハレとケ」のメリハリのある生活を目指しており、季節行事を大切に考え、採り入れていく。今年の元日は、福笑いをしたり、風船バレーをしたりして遊ぶ一日にした。3日には、全員で三島神社に初詣に出かけ、お札を買った人もいます。5月は、利用者が自分で宛を折れるようサポートして被って来た。8月は、庭先で花火をした。午前中はテレビ体操を行い、午後からはカラオケなどを行っている。 法人の取り組みとしてOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)を導入しており、職員2名が受講して事業所に採り入れている。導入により、職員の仕事に対する考え方に変化があり、管理者は、職員が主体的に取り組むようになったことを感じている。その取り組みは、運営推進会議時にも報告を行っている。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価
I. その人らしい暮らしを支える								
(1) ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	普段の会話の中で利用者の思いや希望を聞き、それをカンファレンスで共有してケアプランに反映させている。	◎		利用者との会話から得た情報は、介護記録に記入している。利用者個々の担当職員が利用者の希望や要望などを把握して、3ヶ月に一回のケアカンファレンス時などに情報提供している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	カンファレンスの中で私が利用者だったらと考えて検討している。また、日頃の表情や仕草からくみ取るようにしている。			
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や、電話連絡の時など利用者の近況報告とともに本人の思いについて話している。			
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	特に本人が思いを話した時には記録に残しケアカンファレンスでもこんなことがあったと情報を共有している。			
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	介護度が上がった利用者様に対して以前はこう思っていたかと思込んでしまっ、本人の思いをくみ取れていない時がある。表情などからくみ取るように努めている。			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用者のことについて書いているファイルを読み込んだり、通常の生活で好きなことや嫌いなことなどを会話を通して把握して職員間で共有するようにしている。			入居時に、利用者や家族に聞き取り、アセスメントシートに生活歴・性格・趣味・嗜好等の情報を記入している。入居後に得た情報の追記などは行っていない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	食事の仕方(箸はどう使っているのか、ゆで卵の殻は剥けるのか)やお手伝い(洗濯はためるのか、包丁はどこまで使えるのか)など日常生活の中で把握するようにしている。アセスメントは半年で見直しをしている。			
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員間でこのような状況で不安になったり、笑顔になったりしたかを情報共有している。			
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	職員がこのような対応をしたら不安になった、「帰る」と落ち着きがなくなったと情報を共有している。			
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	大体の行動の流れは職員どうして把握しているが、いつもよりトイレが多かったり、部屋にこもっていたりなど日常ちょっとした気づいた事は、申し送りの際に伝達している。			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアカンファレンスで本人が何を望んでいるのか話し合っている。また聞ける利用者様には直接聞いている。			家族来訪時などを捉えてサービス担当会議を行っており、利用者本人も参加している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアカンファレンスで話し合っている。			
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアカンファレンスで話しあいその問題点に基づいてケアプランを立てている。			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人から聞き取りを行い出来るだけ利用者の思いを汲んだケアプランを作成している。	◎		サービス担当会議時に出た希望や意見を踏まえて、3ヶ月に一回職員で行うケアカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。利用者の状態によっては、医師のアドバイスを計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人には日常の生活の会話で、家族には面会時や電話連絡の際にどうすれば良いか話し合っている。			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	あまり動きがない利用者にも笑顔が見られるように話しかけたり寝たきりにさせないでホールで過ごしていただくようにしている。			
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	行事等には地域の人は参加してくれるが頻度としては少ない。不穏が強い利用者には協力体制を盛り込むことが多いが、穏やかな生活が壊れとほとんど盛り込むことがなくなっている。			
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスで情報を共有して、勤務の職員についてはカンファレンス記録を見てもらいサインをして情報を共有している。補足として連絡帳を活用している。			新しい取り組みとして、介護計画を作成時、職員はその内容を確認して押印するしくみをつくった。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護記録に○×を付け、毎日の達成状況をチェックしている。できるだけ記録に落とす事が出来るように努めている。またケアカンファレンスでその状況を見て次のプランに反映している。			日々の介護記録の上欄に短期目標とサービス内容を転記して番号を振っており、支援したかどうかを○△×でチェックしている。その結果どうだったかについては、利用者個々の担当職員が管理することになっているが、さらに正確度を上げるような取り組みに工夫してはどうか。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者の言葉やしぐさなど特に普段と違った表情を見せられた時には記録に残している。ありのまま書く事で、支援内容がわかるようにしている。			日々の介護記録への記入は少なく、探す必要がある。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	十分に出来ているとは言えないがケアカンファレンスで話したり、ちょっと気づいた時には、次に活かす事ができればとその時の勤務の職員で話すときもある。			職員同士の会話に止まることが多い。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月ごとにケアカンファレンスを行い、プランについて話し合っている。何かしらの変更があり、プランに必要と判断した場合は随時見直しを行っている。			◎	ケアプラン管理表を作成しており、計画作成担当者が介護計画作成の一連の流れを管理している。		
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月の終わりに担当者がその月の利用者の様子についてまとめている。それを介護支援記録にモニタリングとして打ち込んでいる。			△	職員同士の会話に止まることが多い。		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	大きく状態が変化したときにはプラン変更している。また、その際には家族様に連絡して説明、了承してもらっている。			○	退院時など、状態が大きく変化している場合は、家族、主治医と相談し、職員で話し合い新たな計画を作成している。		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会やケアカンファレンスを定期的に開催している。緊急性がある場合はその都度その時の職員でどうするかを話し合い、他の職員に伝達している。			◎	月1回、職員会(全体会の後、ユニット会)を行い、会議録を作成している。管理者が職員と話し合うなどしている。伝達が必要な内容や決定事項は、日誌などに記入したり、管理者が職員個々にSNSで周知したりしている。		
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	発言のない職員の意見を聞いたり、順番に全員の意見を聞いたりしてなるべく多くの意見が出るようにしている。						
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるように開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会やケアカンファレンスは同じ日に行い、イベントがあり、多くの職員が出動している時にはその日に開催している。						
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	職員会も、ケアカンファレンスも記録を行い皆が閲覧できるようにしている。また、参加していない職員にも大きく変わったことがあれば口頭で伝えていく。				○	欠席者には、管理者から添付資料を手交し、口頭で説明を行っている。また、議事録を確認するよう伝えられている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを使用して伝えたいことを書き、見たらサインをして、皆で情報共有できるようにしている。また申し送りやホワイトボードを活用し伝達している。			○	たとえば、家族からの伝達事項があれば、申し送りノートに記入したり、予定表に記入したりして共有している。内容によっては、数日間継続して申し送っている。		
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	夜勤者から日勤者、また日勤者から夜勤者と申し送りを行っている。重要な情報は連絡ノートに記入している。連絡ノートは各自確認すればサインを行う。			○			
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	「買いたい物に行きたい」「病院に行きたい」「馴染みの美容室に行きたい」と訴えがあれば、その日は無理でも調整してなるべく本人が行きたい所へ行っていただくようにはしている。						
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	トイレに行きたいかの有無や、自由食材の時に食べたいものを聞いたり、どのテレビが見たいかなど選択をさせていただいて生活していただくように支援している。				○	おやつ時に、コーヒーをブラックで用意して、好みを聞いてからミルクや砂糖を入れたりしているようだが、ユニットの立ち入り時間の制限があり、ユニット内を十分に確認することができなかった。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	日常会話の中で利用者が思いや希望を話せるようにしている。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	職員によってはつきがあるが、一人ひとりのペースや習慣を考慮して支援できるように努めている。						
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	日常会話の中で利用者が笑ったりにっこりした表情が出たときの話題を職員で共有して良い雰囲気になるようにしている。					○	COVID-19感染予防のための行動自粛期間は、室内で気分転換できるように取り組んだ。花の観賞・笑いヨガ・カラオケ大会なども採り入れた。以前、バイクに乗っていた利用者が、職員のバイクにまたがった時の写真がみられた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	利用者の表情やしぐさなどを見てなるべく本人の意思に沿った支援をしている。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	言葉かけ・態度は常に意識して支援しているが、たまに不穏症状で表情に出たりする職員もいる。	◎		◎	5月の勉強会時に、認知症基礎知識の中で学んでいる。トイレには、「利用者に快適な排泄をして頂く 今行なったケアは適切ですか?」等と記された「排泄介助虎の巻」を掲示している。		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声をかけないように配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	なるべくトイレ誘導等は小声で声掛けしているが、難聴の方においては大きな声になったり、トイレというより「ここ」の方が通じる利用者がいるので、利用者によって誘導は振り分けている。			○	職員会時には、管理者が利用者への適切な対応(フットポイント)などを記した資料を作成し配布している。		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	排泄時、ドアは完全には閉めずに隙間を開けてみている。また、陰部が見えないように掛物をしている。入浴時は自立の方は声掛けだけの見守りを行っている。				△	年末の餅つきの際には、普段は腰の重い男性利用者も、職員の誘いで一緒に餅つきをした。餅が揚ると「もうないか」と意欲的な言葉があったようだ。調査訪問日には、職員同士の業務の声かけが気になった。この機会に点検してはどうか。	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室においては理解はしている。必ずノックをしたり許可を得て入室している。				△	調査訪問時、利用者の了解を得て、ノックして入室していたが、ユニットによっては自由に入出入りしていた。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	適宜勉強会を行い、全員が遵守するようにしている。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	何か手伝っていただいたときは必ず「ありがとう」と言って感謝の言葉を述べたり、人生の先輩として意見を聞いたりしている。						
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	職員によっては十分に理解しているとは言えない。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が見守る機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	席の位置などで皆で情報を集めた上で考えて決めている。また、トラブルになりそう時には職員が間に入って防止に努めている。				○	洗濯物干しを協力して行う利用者の様子や散歩時に車いすを押してくれる利用者の様子の写真がみられた。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	話し合いをして何度も同じトラブルが起こるようなら席替えをする、同じ時に軽作業をしないなど工夫してトラブル防止に努めている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	利用者との会話や家族が面会に来られた時に話をして把握に努めている。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者に差があり、話を通して把握している人もいれば、意思疎通が難しく、話を聞いていない利用者には家族から情報を得て、把握するようには努力している。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	利用者の行きつけの美容室に行く、友人と出かけるなど支援しているが、全利用者に来てはしない。知人等から話を聞けば、必ず本人と話して頂いている。春からは新型コロナウイルスの感染予防のため、行っていない。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	外回りには花や野菜を植えたり、面会時には自宅で交流していただき、家族が来られた時に会話を通して来ていただくようにしている。また時間に余裕があれば一緒にコーヒー等を飲んで頂いている。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	利用者に差があり外出している人もいるが全く外出出来ない利用者もいる。春から新型コロナウイルスの感染予防のため、施設の庭での散歩にとどまっている。	○	△	△	夏は、玄関先でキュウリを育てた。世話や収穫など利用者がちよつと外に出てみるような機会にもなったようだった。 避難訓練で外に避難した際に、ひなたぼっこなどしたが、2階ユニットの利用者については、外気にふれるような機会は少ない。現在、利用者から「出かけたかった」などの希望が出ているようだ。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現時点ほとんど協力を得ていない。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日には外へ出て外気浴が出来るように支援している。			△		外気にふれるような機会は少ない。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	利用者によってはお墓参りや法事などで外出出来てはいるが、ほとんどの利用者は外出支援が出来ていない。春から新型コロナウイルス感染予防のため、外出はできていない。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	○	定期的な勉強会に加え、日々の職員間の情報交換でどのようなケアが良いか話合っている。				職員は、利用者と一緒に折紙、カラオケ、クリスマスなどの飾り付け、餅つきなど場面をつくって見守りなどして支援して。 調査訪問日の午後、職員は洗濯物を取り込み、テーブルの上に置いて「たんでもらってもいいですか」と利用者へ声をかけていた。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	体操を行ったり、食事やおやつ時に取りに来ていたたり。できるお手伝いをして頂いたり、出来る人には自室のモップがけをして頂いたり、身体機能低下に取り組んでいる。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	○	洗濯物たたみや落とし紙折りなどを手伝っていただいたり、更衣も出来るだけ本人でやっていたり、出来ないところは手伝っている。	◎		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	利用者によっては出来ているが、役割を持っていない利用者もいる。				「ハレとケ」のメリハリのある生活を目指しており、季節行事を大切に考え、採り入れている。 今年の元日は、福笑いをしたり、風船バレーをしたりして遊ぶ一日にした。3日には、全員で三島神社に初詣に出かけ、お札を買った人もいた。5月は、利用者が自分で兜を折れるようサポートして被ってみた。8月は、庭先で花火をした。 午前中はテレビ体操を行い、午後からはカラオケなどをしている。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	利用者の出来ることを把握して自分の周りだけ机を拭いてもらったり、洗濯物を畳んでもらったりしているが全ての利用者にて出来ない。	◎	○	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中とするとほとんど出来ないが、年2回の地域の花植えボランティアには職員と一緒に参加している。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	好きな服や髪形などを把握しているが、全利用者ではない。				利用者はいま清潔な服装で過ごしていたが、ユニット評価の立ち入り時間の制限があり、ユニット内を十分に確認することができなかった。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	利用者によって支援にばらつきがあるが、自立している利用者はそれなりに、自分の思うようになっている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	この利用者ならこれが良いだろうと職員が考え、利用者へ聞きながら支援している。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	イベントごとにはいつもより良い服を着るようにしてメリハリをつけている。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく直すこともあれば、たまに小さな声で声掛けして直してしまうこともある。	◎		○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	1名馴染みの店に行けるように支援しているが新型コロナウイルスの影響で現在は行っていない。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	どのような髪形が良いか職員が考えて支援している。服装をできるだけ気を付けている。			○		生活の様子の写真から、みな、似合う洋服を着て過ごしている様子がうかがえた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	定期的な勉強会や研修などで知識習得に努めている。				基本的には、業者の献立で食材が届き職員が調理しているが、週に2回は、事業所で献立を決めて食材を注文し配達してもらい調理している。利用者は、食材の下ごしらえや下膳などを行っているのだが、食事一連にかかわる機会は少ない。 基本的には、業者の献立で食材が届くため、季節感や昔懐かしいものは少ない。調理する職員が味付けやメニューをアレンジしている。週2回の自由食材の日は、利用者の希望などを聞いて採り入れている。誕生日は、本人のリクエスト献立で、ちゃんぽんや刺身などの希望があるようだ。 事業所からクリスマスにプレゼントしたマグカップを使用している。箸や湯飲みは、傷んだら個々の担当職員が責任を持って替えており、利用者個々に個人専用のものを使用している。 ユニットの立ち入り時間の制限があり、ユニット内を十分に確認することができなかった。 ユニットの立ち入り時間の制限があり、ユニット内を十分に確認することができなかった。 定期的に話し合う場は持っていない。味つけ、切り方についてもその場で話し合っている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	料理の準備や片付けは手伝っていただいているが買い物は行っていない。自由食材の時に好きなものを食べていただくように支援している。			△		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材切り・下膳・食器洗い・テーブル拭き等できる利用者に手伝って頂いているが片寄ってしまう。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アセスメントシートや、利用者や家族からの聞き取りで把握に努めている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	職員が持ってきた筍やツブブキ、ミカンなど、季節感を感じさせる工夫をしている。筍と一緒に皮をむき、キュウリやサツマイモの収穫は一緒にして頂いている。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろや器の工夫等)	○	一人一人の能力や口腔状態にあわせた調理方法にしている。利用者によっては、軽い器にしたりしている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その人のレベルにあった物を使用し、飲みやすさ、持ちやすさに重点を置き使用している。					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	○	食べ方や汚れに関しては、常に見守りを行い、誤嚥には常に気をつけ、早期発見が出来るように、必ず、職員も同じテーブルで食べている。					○
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	本人に、食材を見て頂いたり、その日の食事の準備等の様子を雑談の中で伝えている。	◎				◎
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事の際に食事量にバラつきがみられると、一日を通して、どこかで補うようにしている。時に水分補給に関しては、おやつ時や就寝前に多く摂って頂くようにしている。					
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	その時の状態を見て、補充・提供をしている。特に夏場の夜間は希望者にはペットボトルにお茶を入れ就寝時に自室に持ち帰ってもらっている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	レシピ通りの食材を使用して、組み合わせを変える事があるが、主は食べ良い方法を重点にしている。朝食は夜勤者が工夫し、月・木曜日の昼食は勤務者が利用者に関わりたりすることもある。					△
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食品には必ず熱を入れ、器具には指定された消毒液を使用している。消費期限を確認している。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は理解できている。個々の体調とケアの可否を見て対応を行っているが、困難な場合が多い。				自立している人や嫌がる人などの確認は行っていない。異常があったり利用者の訴えがある時に、歯科の往診につなげている。 洗面所の棚の上に、個別の口腔ケアセットを用意している。調査訪問日の昼食後、目が見えにくい利用者を洗面所まで誘導し、洗面所の前では「あと5センチ前です」などと案内して自分で歯磨きが行えるよう支援している様子がみられた。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自立者は確認出来ない所もあるが、訴えのある時には、必要に応じて対応している。介助者は把握は出来るが十分なケアは難しい。			△		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	研修会などを通し、正しい方法は学んでいる。一緒に出来るだけ一緒に洗面に行き、日常的に行っている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自力で出来る利用者は見守り、出来ない利用者は一部介助及び全介助にて対応している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	重度の利用者は義歯の取り出しは介助で行っている。うがいが理解出来ず飲み込まれる事が多い。方法を検討する必要がある。(スティック棒を検討中)					○
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常時には家族に連絡を行い、必要に応じて歯科医に連絡し往診に来て頂いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的な勉強会を通じて知識の習得に努めている。				職員の気付きなどがあればその場で話し合い、支援を検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	定期的な勉強会を通じて知識の習得に努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日の生活リズムを把握してどの時間に排泄しやすいか、排泄の間隔など調べてそれに合わせて支援をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	状態が変わればその都度話し合いをしてどうすれば良いか考えている。	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ケアカンファレンスにて検討しながら改善に向けて取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の排泄リズムを調べ、それに合わせて声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者に聞くこともあるが、利用者の状態に応じ失敗が多くなれば、家族と相談し支援を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	排泄状況を確認して、なるべくオムツにならないように支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食物繊維の食材があれば活用して摂取していただくようにしている。現在1名家族様より健康食品の希望があり主治医と相談し取り扱っている。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	利用者によって差がある。希望を聞いて入浴していただくこともあれば入浴間隔を見て誘導している時もある。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。			○	なるべく急がさないようにしてゆっくり入浴していただくようにしている。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	なるべく自分で洗える所は洗っていただき、移動は個々に応じて支援している。また、自立者においては、声掛け見守りを行っている。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			◎	気分が入らない人に関しては誘導しても嫌だと言われた場合は無理強いしないようにしている。またどのような声掛けをすれば良いか情報共有し気持ちよく入浴できるように支援している。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	毎日バイタルチェックは行っている。体調がおいしい利用者には聞き取りとバイタルチェックを行い、無理には入れないようにしている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の状態をチェックし職員間で情報共有することで、その人のパターンを把握するようにしている。				昨年9月の運営推進会議時には、「笑いヨガを行うことで寝付きが良くなった」ことを発表している。 医師には、状況報告して相談しており、服薬する時間などを検討した事例がある。 現在、半数近くの利用者が薬剤を服用している現状にあるが、この機会を活かして利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討してはどうか。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	寝不足の人には午前中に寝ていただいたり、薬の副作用で眠気が強く出る場合は主治医に相談している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	なるべく薬に頼るのではなく運動や外気浴などで夜に寝ていただくようにはしているが、夜間、他の利用者への迷惑行為等が繰り返されれば主治医と相談し支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に自室で過ごして頂いている。また、自席で休まれている利用者には声掛けして自室で休んでいただくようにしている。拒否される利用者にはそのまま休んでいただいている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望されれば電話で話していただいている。手紙は書かれることはないが、来た場合は本人様に渡している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙の要望はないが、電話を家族にしたいと言われるときは支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話があれば手紙を手渡し、プライベートに配慮し、自室で話して頂いている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人に手渡しし、自室のボードに貼り、目につく場所に掲示している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	各家族の事情等で拒否される場合には、困難であるが、協力的な家族においては電話で話して頂く。また、家族から施設に電話があった時には必ず利用者と話をし、声かけしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	出来ている職員もいるが、理解していない職員もいる。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	本人様が希望されればお金を所持していただき、必要なものの買い物にも行けるよう支援している。新型コロナウイルスの感染予防のため、春より外出できていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物に出掛ける際には職員が同行するようにしており、買い物先では安心して買い物ができるようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人様が希望されれば、家族に相談し所持していただいている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金を所持する事で安心感をもたらし、お礼の意味を表す事を感じている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	お金の所持は一部の利用者に限られており、所持している利用者も、買い物に行く事より、本人が出かける事の苦痛さを優先されることもあり、出かける事が少なくなっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	家族や本人のニーズが変更したときは、その都度職員で話し合い対応できるように努めている。	◎		○	家族からの依頼を受けて、利用者本人の健康維持向上の取り組みの手助けをしたり、支払いの立て替えをしたりしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りやすいように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	季節の花などを植えて、訪問される人に季節を感じていただくようにしている。玄関は夜間以外は無施錠で気軽に来れるようにしている。	◎	◎	○	玄関前が駐車場で、玄関までは、なだらかなスロープに手すりを設置している。建物の周辺、ユニットの入り口周りは、事業所の印象にもなるため、物の整理としてはどうか。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない程風通しの良い共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等)。	○	家庭的な雰囲気をできるように飾り付けをしている。	◎		○	居間の小さなホワイトボードに、「一日分の食事メニュー」を書いていた。おやつは「お楽しみに」と書いていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎期定期的に清掃をしており、トイレ等汚れたらその都度清掃している。				○ 居間は、ベランダ側の窓から光が入り明るい空間になっている。 テレビは、一日を通じて点いていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	その季節ごとの食べものや飾り物を飾って雰囲気づくりをしているが、数は少ない。				△ 居間は、台所と一体となっており、食事をつくる様子などが見える。 季節感を感じるような物は少ないように感じた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の位置を考慮伸が良い利用者同士が話しやすい状況をつくるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	△	使ったら閉めるようにしているが、中が見えている時もある。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	アセスメントシートや、利用者、家族からの聞き取りで把握に努めている。	◎		○	日用品やポータブルトイレを置いている居室がみられた。 家族がマッサージチェアを設置してくれて、利用者がくつろいで過ごせるようにしている居室がみられた。 不在の居室は換気していた。転倒防止のクッションマットを敷いた居室やセンサーマットを設置している居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	その利用者ごとの歩行レベルを考え、部屋の位置や部屋に手すりを付けるなどの工夫をしている。			○	居室入口やトイレへの入り口には、のれんを掛けていた。 テレビは字幕付きにして点けていた。 自室がわかりにくい利用者には、居室入口に大きく名前を表示している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	利用者が間違った時は検討している。				
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞などは置いている。台拭きなどはその都度渡して机を拭いていただくようにしている。利用者には危険の無い限りすぐにお渡しいできるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	施錠による弊害は理解している。日中は鍵をかける事はないが、常に無断外出がないよう見守りをしている。	◎		◎	日中は玄関に鍵をかけていない。 数年前に、話し合って決定したため、職員は、「鍵をかけないことは当たり前」と認識している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	自由に出入り出来る事は家族も望まれており、施錠はしていない。特に安全確保については、気づいた時には話し合いを行っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	センサーなどを設置して外に出ればわかるようにしているが、基本職員が注意して利用者を観察して外出したいなら一緒に歩いて行って気が済むまで付き合っている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシートや家族の来訪時の会話で情報を把握している。または、申し送り等を活用し、正確な情報を共有するように努めている。				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	生活記録や業務日誌、及び申し送りノートを活用し、受診時に情報を提供している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	細かな事でも気になる事があれば、他の職員に伝えておく事で漏れの内容に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	必要に応じて、主治医の指示により、受診の支援を行っている。定期的に受診が必要になれば、家族の協力も必要である。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	異常があった場合には、家族に連絡し、受診の結果を報告しており、また住診時に、家族が立ち合い、話を聞かれる事もある。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族が受診困難な場合には、職員が受診を行い、救急な場合には電話連絡を行っている。また面会時に話をする場合もある。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	ホームでの生活状況や性格等、入院時に情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室と連携をとり、状態の把握に努めている。また担当医と家族を含め、話し合いにも参加している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医と密に連携をとっており、異常があれば主治医にすぐ連絡するようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	介護職員がわからない時には看護職に連絡して支持を仰いでいる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	緊急時の連絡先リストを作成していつでもかかりつけ医に連絡できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェック時や急に異常があった際にはまず職員で対応して対応できなければかかりつけ医に連絡して支持を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者のファイルに薬の名前や目的などをファイリングして、薬が変われば住診記録に記入してサインすることで全職員が把握できるように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	チェック表に配薬した職員の名前を書いたりセットする際にはだれがセットするか決めごとを作っている。また服薬時には飲み終わるまで見るようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬が変わった時には特に気を付け日常の変化が薬のせいなのかどうか皆で話し合っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	異常があれば報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	かかりつけ医の指示のもと家族との話し合いを設け、どうすれば良いか話し合っている。				医師から終末期に入ったことを告げられた時には、住診日に家族に来訪してもらい、話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医の指示のもと、職員会やケアカンファレンスなどで職員全員と情報を共有している。	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看取りの際には、職員に声掛けを行いどの時点で家族や主治医への連絡を行うか、説明をしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時の説明や面会時に質問された時には、必ず出来る事・出来ない事の説明を行い理解して頂くように努めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	かかりつけ医の指導のもと、職員全員で支援していくように話し合っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族様から連絡・相談があった時には出来るだけ傾聴し不安が少しでも軽減できるように努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的な勉強会を開いて職員が講師となり、皆で感染症について学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会で、感染症が発生した場合にはどうすれば良いかの訓練をして勉強している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政等から感染症に関してFAXが来た時は目を通して				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	新聞やニュース等で把握に努めている。また感染症の流行期の12月～3月までは3回/日トイレや手すり等の消毒を行っている。玄関にはマスクと消毒液を準備している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は適宜手洗いをこなしている。利用者にも、こまめに手洗いを必ず手指導をするように徹底している。家族が来所された際には手指消毒をしてマスクを着用していただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	職員によって差があり、きちんとできている職員もいれば、まだ出来ない職員もいる。				11月に家族交流会を行い、8割程度の家族の参加があった。利用者と家族で力を合わせてできるようなゲームをしてふれあい、笑顔の写真がみられた。 季節ごとに事業所便り(サルビア便り)を発行して活動を報告している。 月1回、担当職員が写真や利用者の状況を手紙にして報告している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日中は常に鍵をかけたず、季節の花など植えたり飾ったりして来所しやすい雰囲気を作っている。現在コロナウイルスの影響で面会は10分までと制限している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	年2回家族会・交流会を開催するにあたり家内を出て参加していただき、利用者や職員と馴染みの関係が持てる機会を作っている。新型コロナウイルス感染予防のため春は行っていない。	◎			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月に1回のお便りや、年に4回のサルビア便り、また、電話連絡などで利用者の近況報告をしている。	◎			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族と会った時や電話で質問されたことは回答を出している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	職員においては研修会の開催等を行い理解に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	5月の家族会・交流時には前年度の事業報告等を行っている。またその都度職員の異動については報告をしている。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、書類を送付。	○			
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	年2回家族会・交流会や外出行事などで参加していただくように声掛けしている。交流会時には家族様同士話が弾んでいる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	特に、転倒や無断外出の恐れが見られる時には家族に説明し出来る限り、危険のないように対策を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪された際に職員が聞き取りを行いその希望をケアカンファレンスで話し合っプランに反映するようにしている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所時に必ず説明を行い、変更がある時は必ず家族に説明を行い、契約書・重要事項説明書の変更の際には必ず署名をもらっている。				事業所便り(サルビア便り)で管理者の交代を知らせた。家族交流会時に職員の紹介を行った。設備改修や機器の導入はこの一年間で事例がないようだ。 電話連絡するよう時には聞いている。事業所便り(サルビア便り)に電話番号とともに「ご意見、ご希望、お気付きの点がございましたらお気軽にご連絡ください」と記している。
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	必ず家族に説明をし理解をもらい退去への支援を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で説明し同意を得て、署名をもらっている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	説明機会は出来ないが、行事をする際には、地域の代表者に声掛けを行い、参加できる地域の方には参加して頂いている。(家族交流会・避難訓練)		◎		町内会から声がかかり、奉仕作業や花植えに利用者も参加している。昨年、地区の敬老会に参加(利用者7名)した際には、階段の昇降を手伝ってもらった。COVID-19感染予防のため、現在は、地域とのかわりには中止しており、関係性を深める活動はほぼない。さらに、このような状況でもつながっていただけるような方法を模索してほしい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	参加できる地域の事業には入居者と共に参加したり、奉仕作業には職員が参加しているが現在はコロナウイルスの影響で自粛している。		◎	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	増えているかどうかはわからないが、地域の方より施設で何かあった時には協力しますという言葉は頂いている				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	近所の方が1名声掛けてくださるがほかは皆無である。新型コロナウイルス感染予防のため、春よりできていない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	近所の方が1名来てくださるがほかは皆無である。散歩に出た際には立ち話をすることもある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	避難訓練・家族交流会には参加して頂いている				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	現時点ではほとんど出来ない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	避難訓練などで協力を仰いでいる。また敬老会では公民館へ外出している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	◎	利用者においては、その時の状況で参加してもらっている。家族においてはどうしても平日開催なので、会長だけの参加になっている。地域の方も参加してもらっているが現在はコロナウイルスの影響で書面の開催のみとなっている。	△		△	利用者は参加していない。 家族は、家族会の会長が代表して参加している。地域の人は毎回参加している。 COVID-19感染予防のため、3月の会議からは書面会議となっている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	作成すればその都度、報告を行っている			○	現状報告(行事や利用者、職員の状態)を行っている。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告を行い、意見ももらうが日々の仕事に追われなかなかサービス向上までには結びついていない。			◎	△	外部評価実施後は結果を要約して報告を行っているが、自己評価実施後は報告を行っていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	避難訓練や・交流会には地域の方の参加があるが現在はコロナウイルスの影響で自施設のみの実施になっている			◎		質問や意見は出るが、サービス向上に活かしたり、報告したりする取り組みには至っていない。
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関に会議資料が見れるようにしている。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「あたりまえ」の意味についてはたまに職員会で話している。ただ、「ひとりひとり」あたりまえ」が違うように「あたりまえ」の支援は難しい。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	入所時や、何かの機会です話事はあっても、なかなか理念については話事はない。		○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の意向も確認しつつ、職員体制も考え出来る限り、研修会には参加できるように努めている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設内研修の項目は年度末～年度初めに決定し、職員が講師になり行っている。また、本社へOJT研修に行きその成果を自施設で実施している。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の賞与と年1回スキルアップにおいては管理者が評価を行い報告を行っている。また、必ず年2回の施設長面談で施設長から職員へフィードバックしている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	参加できる機会があれば、参加できるように配慮を行っているが現在はコロナウイルスの影響で自粛している					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年1回ストレスチェックがあり、それに問題があった場合は専門医への相談等配慮される。		○	◎		○
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待については研修会等で学んで理解している。虐待は絶対に行ってはいけないという事を日々の会話の中や職員会の雑談の中でも話し合いをしたり、助言を行っている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ゆとりの時間が出来た時や、入居者に変化があった時には、そこにいる職員で話をし送りし、どうしていいか相談している。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	3か月に1回、身体拘束委員会を虐待においては絶対ではないけれども理解している。また、言葉かけが乱暴と思われる時には注意を行い、不審な気づき等を発見した時には事故報告書におとし、なぜできたのか職員間で話し合っている。					
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	年1回ストレスチェックがあり、それに問題があった場合は専門医への相談等配慮される。職員より情報が入ると必ず1:1で話し合いを設けるようにしている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束を行わないという介護を職員に徹底している。3か月に1回の身体拘束委員会と年2回全職員対象の身体拘束の勉強会を行い理解に努めている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束委員会を3か月1回開催し、年2回の全員研修を行う。					
		c	家族等から拘束や錠剤の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を話し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	必ず家族への説明を行い、身体拘束をしないように努めている。また、どうしても身体拘束をしなくてはならぬ場合、ケースが発生した場合には、必ず職員間で話し合いを行っている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度を利用している入居者が1名いる。毎年研修をしているわけではないので、新しい職員は理解していないかもしれない。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談等があればパンフレット等で話ができるが、今のところ対象者はない。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要な利用者がいれば、相談できる関係づくりは確立している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	作成し周知している。				/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な開催はしていないが、職員の質問に応じ対応している。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを記入するようにしているが、なかなか数的にはあがっていないのが現実である。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケースカンファレンスや状態変化時には話し合いを行っている。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルの作成はしているが、職員自体の対応については格差があると思われる。				/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今まで、大きな苦情がない。施設内や会社等で解決できない時には市町への相談も必要であるという事は理解している。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情がない。ただ、苦情があった時には真摯に受け止め、解決手段をとる必要があると考える。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	窓口は設置している。利用者においては担当職員がいるので、何かしらには話を聞いている。			△	利用者は運営推進会議には参加していない。担当職員が聞くこともあるようだ。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	窓口は設置している。面会時や交流会時には意見や要望は確認している。	○		◎	運営推進会議や家族会時に、意見や要望などを聞いている。家族会時には、家族会の代表者が司会進行して他の家族の意見を聞いてくれている。	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	窓口は設置している。相談があれば、必ず主任・管理者が対応するようにしている。					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどで職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	毎月、事務担当職員が来所し相談のつくれる。また、何かあれば連絡をすればすぐに対応してくれる。また、年2回は個別に施設長面談があり話を聞いている。					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員においては施設長が年2回管理者の評価を基に個人面談を行っている。管理者は職員から相談等があれば必ず時間を設け、相談内容によっては施設外での面談機会を設けている。利用者においては担当者を中心としてケースカンファレンス時や問題提起があった時には、話し合いを持っている。			○	2階ユニットの職員からの提案もあって、水曜日は入浴支援をストップしてシート交換やレクリエーションをゆっくり行う曜日に設定した。	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	管理者と各主任がその担当の職員の意見を聞いて自己評価に取り組んでいる。全項目を職員はチェックしていない。				/	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	外部評価の年には評価委員の評価と共に課題を明らかにし、話し合いの場を設けてはいるが、自己評価だけの年は行っていない。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、事業所内で話し合い、取り組んでいる。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	家族や推進会議メンバーに報告は行っているが、モニタリングまでは行っていない。	○	○	△		外部評価実施後の運営推進会議時や家族会時に、結果を要約して報告を行っているが、昨年の自己評価実施後は報告を行っていない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内での確認はおこなっているが、運営推進会議では報告だけで、成果の確認までできていない。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル等は作成している。また、家族会時に周知を行い協力においても依頼はしている。				/	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練は3~4か月に1回、何らかの災害を想定し行っている。年1回は推進会議・地域住民にも参加して頂いているが現在はコロナウイルスの影響で自粛している。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備においては業者が定期的に点検を行っている。非常会においては賞味期限などが切れないようにしている。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練時年1回は推進会議・地域住民にも参加を頂いているが現在はコロナウイルスの影響で自粛している。	○	◎	△		運営推進会議時に避難訓練を行い、地域の人達にも協力をお願いしている。(COVID-19感染予防のため、現在は、職員と利用者のみで行っている)居室入口に、ライフジャケットを用意している。ライフジャケットの着用、避難場所についても、いざという時に確実に実行できるように計画、訓練を重ねてほしい。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の避難訓練・防災訓練には参加している。が現在はコロナウイルスの影響で参加していない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地区の奉仕活動に参加し、啓発活動に取り組んでいるが現在はコロナウイルスの影響で自粛している				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと 市内在住相談などはあるが、地域のケア拠点として相談支援を行うまでには至っていない。今後は、地域に向けて気軽に相談できる場所として知ってもらえるよう、取り組みを工夫してほしい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	見学・相談や資料請求等があった時には、時間の許す限り傾聴を行い、次のステップへと繋げることができるようにしている。		◎	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	現在はコロナウイルスの影響で実施していない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	現在はコロナウイルスの影響で実施していない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	研修内容・時間帯においては職員が出来るだけ参加できるようにしている。			△	